10月の園だより

令和4年9月29日
杉並区立西荻北子供園
園長　石床　美穂子

幼児のやりたい思いを支えることで育つ力

副園長　小森　三奈子

２学期が始まり、１か月が過ぎました。暑さが和らぎ、園庭では、子どもたちが体を動かして遊ぶことを楽しむ姿が多く見られるようになりました。

年少うさぎ組は、担任がかいた丸いライン上を友達や保育者と一緒に、繰り返しぐるぐる走って遊んでいます。ある日、ふと園庭を見ると、年長組がリレー遊びをしています。その様子を見て、初めは「がんばーれ！」と応援していた年少組が、「ぞう組さんの持っているもの（バドン）いいな」「自分たちもやってみたい」と言いました。その思いを汲んだ担任は、すかさず新聞紙でバドンを作りました。年少組は、リレーをするということよりも、自分もバドンを持って走ることに興味をもっています。そして、みんなが１つずつ持ちたいので、担任はバドンを幾つも用意しました。すると、バドンを手に持った子が、保育者や同じ場にいる子と一緒に嬉しそうに何周も走りました。保育者が幼児の思いから環境を用意して、「バドンを持って走りたい」という気持ちを支えたことで、繰り返し走ることを楽しみ満足感を味わう姿に繋がっていきました。

年中くま組は、９月１０日に行われた西荻北子供園まつりのゲームを親子で楽しみました。どのコーナーも人気でしたが年長組が作った射的は、狙ったところに弾を当てることが面白く、子供園まつり後に、「射的が楽しかった。またやりたい。」という声があがりました。担任は、その思いを汲み、自分で選ぶ遊びの中で子どもたちが、おまつりの再現遊びを楽しめるように、射的のピストルを用意しました。そして、射的の場や的は自分たちで用意できるようにしました。すると、積み木で場を作り、製作コーナーにある空き箱を自分たちで並べ、射的ごっこが始まりました。初めは、箱を手当たり次第に並べていたのですが、遊ぶ中で「この箱だと（大きすぎて）倒れないから、小さい箱にしよう」「２つの箱を１度に倒せるように、箱同士をくっつけて置いておこう」等、「箱を倒したい」という思いから、遊びながら思い付いたことを試したり工夫したりする姿が見られました。

年長ぞう組は、９月２２日に連携校である桃井第三小学校に行き、１年生と交流しました。短い時間でしたが、１年生が歓迎の言葉を言ってくれたり、１年生が作った学校の生活や授業を紹介した新聞（１年生の１日）をプレゼントしてもらったりして、年長組は、嬉しさを感じていました。園に帰ってくると早速、学級の皆で１年生が作ってくれた新聞を見ました。担任は、学級のみんなでじっくりと新聞を見る時間を作り、その中で思いを巡らせたり、気付いたことや考えたことを言葉で表したりできるようにしました。１年生が作ってくれた新聞は、小学校でする勉強や、小学校でできること等を写真と共にとても丁寧に作られていました。年長組の子どもたちは、新聞を見ながら、就学への期待感を膨らませていました。また、「日直って何かな」「帰りの会のクイズは、どんなことをしているの」等、半年後に控えた小学校生活に、より興味をもつ姿につながりました。

子供園では、今後も幼児が自ら意欲をもって取り組む中で、遊びを通して様々なことを学べるように、保育者が環境や保育者の援助を通して、幼児の「やりたい」という思いを支えていきます。

子どもたちの様子と今月のねらい

３歳児　うさぎ組

心地よい気候となり、園庭で保育者や他の幼児と「先生待て待て～」と言いながら走ることを楽しみました。９月下旬には、年長組がリレーを走っている姿を見て刺激を受け、繰り返し走ったり、楽しそうな雰囲気を感じて周りの幼児と一緒に追いかけあったりする姿も見られるようにもなりました。また、おうちごっこやプリンセスごっこなど見立てたりつもりになったりしながら、ごっこ遊びを楽しみました。

<今月のねらい>

○保育者や他の幼児と一緒に体を動かして遊んだり、戸外で過ごす気持ちよさを感じたりする。

○遊びを楽しむ中で、自分の思いを動きや言葉で保育者や周りの幼児へ伝えようとする。

○身近な自然に触れたり、遊びに取り入れたりする。

<家庭との連携>

自分で支度をしたり、着替えをしたりしようとする姿が見られています。少しずつ気候も涼しくなってきます。上着を着用する際は、ご家庭でも裏返しになった袖を一緒に直したり知らせたりして、自分でできることを増やしていきましょう。また、上着をロッカーに掛けられるよう、首元にループがついているか確認をお願いします。

４歳児　くま組

「忍者の引っ越しよーいどん！」と毎日園庭から鬼遊びをする元気な声が聞こえてきます。友達と一緒に体を動かすことが楽しくなり、友達が遊び始めると「入れて！」と一緒に遊ぼうとする姿が増えてきました。運動遊具を組み合わせたり、忍者の衣装を身に付け動いたり、忍者になって動くことも楽しんでいます。一方で、思いの違いからトラブルになることも増えてきました。保育者が橋渡しをして互いの思いをよく聞き確かめ、相手の思いにも気付くように支えています。互いの思いが伝わり、自分の思いが伝わった嬉しさを感じられるようにしていきます。

<今月のねらい>

○保育者や学級の友達と、思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

○自分のやりたいことや思ったことを言葉や動きで表しながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

<家庭との連携>

運動会に向けての取り組みが始まりました。“運動会の練習”ではなく、普段の運動遊びを運動会につなげていきたいと考えています。子どもたちが緊張感なく運動会を楽しみにすることができるように、「楽しみだね。」と運動会があることへの期待感に共感してあげてくださいね。

5歳児　ぞう組

日差しが少しずつ和らいでいき、戸外で過ごすのが気持ちのよい気候になってきました。ぞう組は、運動会に向けてリレーの練習に夢中になっています。担任がトラックのラインをかいておくと、自分たちでトラックに沿ってカラーコーンを置き、仲間を集めてチームを決めてリレーを始めるようになりました。「運動会のために」「走るのが速くなるために」「井村隊長に見せるために」「自分のチームが勝つために」など、それぞれが自分なりのめあてをもって、運動遊びを楽しんでいます。

<今月のねらい>

○運動会に向けて一人ひとりが自分の力を十分に発揮し、満足感や達成感を味わう。

○できた喜びやうまくいかない悔しさを感じながら、最後まで諦めずに取り組もうとする。

○生活や遊びに見通しをもち、友達と一緒に取り組んでいこうとする。

<家庭との連携>

運動会に向けて活動を進める中で、子どもたちは今「勝って嬉しい」「負けて悔しい」という感情に触れています。また今月は「勝つために」という気持ちでリレーの走順や作戦を自分たちで考えていきます。「今日負けちゃったんだ…」「本当はこうしたかったんだ…」など仲間とやりとりをする中での葛藤場面も想定されます。気持ちを切り替えたり乗り越えたりする力や、自信がつくよう、あたたかい応援をお願いします。

ほしグループ　長時間保育

気持ちのいい風が吹き、心地良く過ごせる日が増えてきました。外遊びを楽しむ姿が見られるようになりました。

うさぎ組は、おしろい花で色水づくりをして色が出てくることを喜んだり、保育者と一緒に走ることを楽しんだりしています。くま組とぞう組は、一緒になって忍者の引っ越しや氷鬼の鬼ごっこをして体を動かすことを楽しんでいます。また、ぞう組の子どもたちは室内でつみき遊びをする中で、友達と話し合いながら船や駅をつくって遊んでいます。

１０月も園庭でたくさん体を動かして遊んでいきます。また、夕方は気温が下がる日も予想されるので服装にも気にかけていきたいと思います。